



大分市立
鴛野小学校
学校だより

鴛野小通信

令和2年
7月9日(木)
NO. 11
発行者：板井勝博



アマビエぬりえ大会 表彰式

一か月ほど募集をしていました「アマビエぬりえ大会」は6月26日に締め切られ、なんと鴛野小学校の半分近くの93名が応募する盛り上がりとなりました。

7月7日には、校区自治会連合会会長・廣瀬修二様、校区まちづくり協議会会長・秦成美様、公民館長・植木康司様、公民館主事・柴崎亞希様の出席のもと、表彰式を校長室で行いました。当日は大分合同新聞の記者の方も取材に来られていましたので近いうちに合同新聞にも掲載されると思います。

現在、公民館に応募作品すべてを掲示しているそうです。8月5日まで掲示をする予定ということですから、ぜひ学年・学級懇談会の帰りにでも公民館に寄ってみてください。



入賞者の子どもたちと記念撮影

心のこもった手作りマスク

先月6月26日、旦の原ハイツの牧末子様より鴛野小学校1年生にと心のこもった手作りの布マスクをいただきました。かわいらしい柄の入ったマスクです。ありがとうございました。大切に使用させていただきます。



幻の七夕様

私としては下の「おしのお七夕バージョン」のようなきれいな夜空が7日の夜に見えるのを期待していましたが残念な天候となってしまいました。

いや、残念どころかとんでもない天候になりました。先週末からの九州南部を中心にする豪雨での被害、そして、県内でも日田・玖珠を中心とした被害と自然の怖さをまざまざと見せつけられました。8日未明の屋根をたたきつけるような雨音には一瞬恐怖を感じました。

昨日は雨も上がり、7月らしい天気となりましたが、再び激しい雨が降る可能性が十分あります。臨時休校や時差登校のときには学校よりメールにてお知らせしますので注意をお願いいたします。

また、増水した河川、側溝などをのぞき込むことは非常に危険です。学校でも指導しますのでお家でも子どもたちに話をしておいてください。

下のイラストのような穏やかな夜空が早く戻ってきますように。



各賞の入賞者作品

鴛野小学校 校歌について

校歌

作詞 柴尾 治
作曲 保月 準次

- 一 若草もゆる 学舎に
緑のめぐみ 連なりて
本宮山は そびえ立つ
ああ たくましく
みんな元気に 学ぼうよ
われらの 鴛野小学校
- 二 歴史の道は 新しく
そよ風かおる 笹越に
やさしく歌う 小鳥たち
ああ ほがらかに
みんな仲よく 遊ぼうよ
われらの 鴛野小学校
- 三 霊山の水 流れ来て
大きな夢を うつつつ
果てなき海へ 流れゆく
ああ 美しく
希望の明日を ひらこうよ
われらの 鴛野小学校

*本校の「わかさ学級」の名前は校歌の「若草もゆる」から付けたのだそうです。

以前の「鴛野小通信」で校章の由来についてお知らせをしました。今日は校歌の由来についてお知らせをします。引用は『開校20周年記念誌「鴛野」』（1999年発行）からです。

校歌に寄せて

校歌を作詞されたのは、鴛野小に勤務されていた柴尾治先生でした。

一番の歌詞に出て来る本宮山は学校からよく見えます。緑が豊かに本宮山まで続く様子がとても印象的だったそうです。

「若草もゆる まなびやに 緑のめぐみ 連なりて 本宮山は そびえ立つ」という歌詞はこんな様子を表しています。

二番の歌詞にある「笹越え」は敷戸から高江に抜ける峠です。その昔は山の中の家もなくさびしい峠でしたが、柴尾治先生はこの言葉の響きに郷愁のようなものを感じ、この地名を入れられたそうです。

校歌を作曲されたのは、当時舞鶴小学校教頭の保月準次先生でした。

校歌の作曲依頼を受けた保月先生が考えられたことは、

- ①学校名を声高らかに思いっきり歌いあげたい。
 - ②子どものための子ども自身の歌にしたい。そのために、
 - 低学年でも気軽に無理なく発声できる音域で…
 - 単純・軽快で流れがあり、重苦しくないリズムで…
 - 歌いやすく覚えやすい旋律で
 - ③子どもの個人持ち楽器による演奏が気軽にできるような曲にしたい。
- ということでした。



鴛野小学校から本宮山と霊山がよく見えます。

高校生のとき通学で高江の峠を自転車で越えていました。一見緩やかなこの峠、結構きついのです。現在の電動アシスト自転車で通う高校生を羨ましく思います。

この辺りを昔は笹越え峠と呼んだのでしょうか。風景を見ているとなんとなく納得できるような気がします。

